

行政中心複合都市「世宗市」が新たに誕生します！

～荒野に新都市を建設、中央官庁の移転と特別自治市制度の創設～

ソウル事務所

韓国では首都圏の過度な人口集中にともなう副作用を是正し、国土の均衡開発を図るため、新たな行政中心複合都市「世宗市」が2012年7月に誕生します。

1 経緯（これまでの流れ）

当初は全面的な首都機能の移転を目的に計画が立案されましたが、途中の憲法裁判所による違憲判決や政権交代などにより、何度も方針転換を余儀なくされるなどの紆余曲折を経て、現在に至っています。

年代	主な出来事
2002年	・盧武鉉 ^{の むひょん} 大統領が大統領選挙の公約として「首都圏集中抑制と国土の均衡開発を目的に、青瓦台（大統領府）と中央省庁をソウルから忠清道に移転する」ことを表明。
2003年	・大統領直属の「新行政首都建設推進企画団」が発足。 ・「新行政首都建設特別措置法」が国会通過。
2004年	・国が「忠清南道の燕岐郡と公州市の一部」を首都移転先として決定。 ・ソウル市議、有識者、企業家等が「新行政首都建設特別法」の違憲判決を求めて提訴。 ・憲法裁判所による違憲判決「首都移転は憲法改正、または国民投票を通じて決定すべき事項であり、その手続きを経なかったのは違憲。」
2005年	・国が代案として「行政中心複合都市建設特別法」を国会に提出、通過。 ★青瓦台（大統領府）、国会、大法院（最高裁）、外交部、行政安全部等、3機関6部は移転しない。
2006年	・国の行政機関として行政中心複合都市建設庁を設置。 ・新たな都市名を「世宗市」に決定。 （★世宗（せじょん）とは、朝鮮王朝の全盛期を築いた王様の名前に由来）
2007年	・「世宗市」建設着手
2008年	・李明博 ^{い みょんぼく} 大統領就任
2009年	・李明博大統領が世宗市修正方針を表明「行政都市から先端企業・教育都市へ」。
2010年	・国が行政機関移転を白紙化する「世宗市計画修正案」を国会提出。しかし、国会で否決。 ・世宗市建設計画の原案に基づいた「世宗特別自治市設置法」が国会通過。
2012年	・燕岐郡と公州市の一部等を編入して、7月1日付で「世宗市」が誕生予定。

2 行政中心複合都市（世宗市）の概要

世宗市は、行政中心複合都市として既存自治体の行政区域から独立して2012年7月に誕生する予定です。また、日本の都道府県レベルに相当する広域自治体としてのステータスを有する自治体であるとともに、管轄区域には日本の市町村区に相当する基礎自治体を置かない特別な市となります。

行政区域	現在の忠清南道燕岐郡、公州市の一部、忠清北道清原郡の一部を編入
面積	市の区域：465 k m ² （ソウル特別市のおおよそ3/4の規模） 開発対象区域（中心部面積）：73 k m ²
目標人口	50万人（目標達成予定年：2030年）
位置	ソウルから南へ120km、大田と清州から10kmの距離



【世宗市の位置（韓国の地図）】

3 主な政府機関の移転計画の内容

世宗市の誕生に伴い、9部2処2庁など36個の中央政府機関が、2012年の国務総理室の移転を皮切りに、2014年までに順次移転する予定です。

移転する 主な機関	国務総理室、企画財政部、国土海洋部、環境部、農林水産食品部、教育科学技術部、文化体育観光部、知識經濟部、保健福祉部、雇用労働部、国家報勲処、法制処、国税庁、消防防災庁、公正取引委員会、国民検疫委員会
移転しない 機関	青瓦台（大統領府）、国会、大法院（最高裁判所）、統一部、外交通商部、国防部、法務部、行政安全部、女性家族部

4 世宗市の都市計画ビジョン

行政中心複合都市「世宗市」の建設は、韓国最大規模の国策事業です。世界に類を見ないモデル都市建設を目指しています。以下の7つの特徴的な都市計画ビジョンを掲げています。

都市計画のポイント	主な内容
① 世界最初の環状型 都市構造	・ 中心部の緑地空間を自然のまま残し、その周辺に住居空間を配置（中心部の緑地面積は全体面積の52.4%） ・ 住居空間の外環を更に緑地が取り囲む二重の緑地ベルト構造
② 品のある統合デザイン概念の導入	・ 国際公募を通じた公共施設の建築設計 ・ 都市全体の屋外広告の表示制限 ・ 国内最初の街路空間及び公共施設物（44箇所）の統合設計
③ 最先端の知能型 Smart City建設	・ 国内最大規模の「都市統合情報センター」の建設 ・ IT技術を駆使した都市大衆交通網（BRT）の制御・管理 ★BRT=バス高速輸送（Bus Rapid Transit）の略
④ 世界的水準の教育 環境の構築	・ 1クラス20名（OECD平均）基準の学校を150校設置 ・ 保護者に人気の高い外国語高校、科学高校、芸術高校を設置 ・ 国内外からの大学キャンパスの誘致
⑤ 人に優しい定住条件の造成	・ 「5無」都市の実現（電柱・ごみ箱・立て看板・広告看板・路上駐車） ・ アートセンター、博物館団地、韓国文化団地等の建設
⑥ 世宗大王の名前に 相応しい韓国らし さの具現化	・ 町名・道路名・公共施設名等に韓国らしい名前（韓国固有語）を付与 ・ 世宗大王を象徴する文化・観光アイテムの開発
⑦ 多様かつ滞りのな い交通網の構築	・ 2017年までに7路線の広域幹線道路を建設 ・ 市民の公共交通利用を促すためのBRTや循環道路等の建設

5 おわりに

2011年7月、韓国に駐在している日本の地方公務員の方々と一緒に、世宗市建設を担当している行政中心複合都市建設庁を訪問するとともに、実際の建設現場を視察しました。写真のとおり、至る所で建設工事が行われており、公共工事の規模の大きさに驚かされました。また、行政中心複合都市建設庁のチェ・ミンホ庁長（当時）がご多忙の中、直接我々

の質疑応答にに応じてくださり、これからの世宗市の都市計画ビジョンを熱く説明してくださったのがとても印象的でした。

しかしながら、我が国でも東京の過密対策として1970年代に学園都市の建設が始まり、紆余曲折があったとおり、職と住の均衡した新たな都市建設には多くの困難が予想されます。世宗市では、政府庁舎、道路、住宅等が順次先行整備されているものの、学校やショッピングセンター等の日常生活に必要な施設についての整備の遅れが予想されます。また、一部報道では、教育や育児問題が予想されることから首都圏に居住している国家公務員を中心に世宗市移転を好まない「世宗市忌避シンドローム」が蔓延しているとされており、政府関連機関から首都圏の地方自治体への異動が増え、移転を予定している中央官庁が人材の流出対策に様々な努力をしているとも報道されています。

行政中心複合都市建設庁でのブリーフィング¹の際に、我々日本人公務員からの「首都圏への人口集中率が40%を超え、人々の首都圏志向がとても強い韓国において、どのように人々を世宗市に定住させるか、また人々の意識を如何に変えてゆくのか」という問いに対して、チェ・ミンホ庁長から「人々の意識を直接変えることは難しい。しかし、人々が住む環境を変えることは出来る、そして、その環境こそが人々の意識を変え、世宗市での定住を促すきっかけとなるだろう。」との回答があったことが、とても印象的でした。これから、どのようなモデル都市が誕生するのか、そして、韓国の人々の意識がどのように変わるのか、世界的なモデル都市「世宗市」の今後の動向をこれからも注視していきたいと思えます。

最後に、世宗市訪問の際に、現場視察のアレンジや都市計画に関するブリーフィングを快く引き受けてくださったチェ・ミンホ庁長をはじめとする行政中心複合都市建設庁の皆様に対しまして感謝を申し上げます。

(川村所長補佐 富山県派遣)



【2011年7月現在の建設中の政府庁舎の様子】

¹ ブリーフィング Briefing

報道機関などに対し当事者が行う簡潔な状況説明をいう。レクチャーとも呼称される。